

2024
7.3 (水)12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

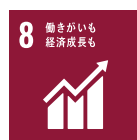
登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_YItI6_D3QyGNCoX_GKmgAg

【技術支援】九州大学 Q-AOS

若者はなぜ林業に向かうのか？ ～森林と人との新たな関係性を求めて～

司会：横田 文彦 准教授 (Q-AOS コーディネーター)



Key Words

森林管理

林業

自伐型林業

減災

生物多様性

農山村定住

佐藤 宣子 教授

九州大学 農学研究院 環境農学部門

福岡県出身、九州大学農学研究科博士後期課程修了、農学博士(1989)、大分県きのご研究指導センター研究員、九州大学農学部助手、助教授を経て2007年より九州大学大学院農学研究院教授。専門は森林政策学、山村社会学。2011年、林業経済学会賞を受賞。現在、林業経済学会会長、NPO 法人九州森林ネットワーク理事長、国土審議会山村振興対策分科会特別委員、日本学術振興会専門研究員などを務める。また、「流域特性を踏まえた林野公共事業の多角的評価と緑の社会資本整備にむけた制度設計」(科研基盤Aプロジェクト)で学際研究を推進している。著書「地域の未来・自伐林業で定住化を図る」(2020年)全国林業改良普及協会、編著書「ほんとうのエコシステムってなに？」(2023年)農山漁村文化協会など。

陸上で最大のバイオマスである森林の管理と保全は気候変動対策にとって重要な分野です。日本は国土の7割が森林であり、持続的に森林資源の利用しながら、期待される森林の多面的な機能を維持・向上させるような林業が求められています。林業の担い手は減少し、高齢化が進んでいましたが、近年農山村に移住し、林業をはじめめる若者が注目されています。どのような若者が何を求めて森林や林業を目指しているのでしょうか？その中に森林と人との新しい関係性を展望しうる動きはあるのでしょうか？報告では、林業に参入した若者を対象としたフィールド調査を紹介しながら、人と森との新しい関係性や森林業の可能性について考えます。

2024

7.10 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_-8xJr8kqTNGXgw4qu3ulxw

【技術支援】九州大学 Q-AOS

デンドリマーを基盤とした発光材料の開発 - 塗布型有機 EL の開発に向けて

司会：キム シューマツハ 准教授 (Q-AOS コーディネーター)



Key Words

有機 EL

デンドリマー

発光材料

アルブレヒト 建 准教授

先端物質化学研究所



2010 年慶應義塾大学大学院博士課程修了し博士(理学)を取得しました。2010 年東京工業大学資源化学研究所 特任助教、2012 年同助教を経て、2016 年山元アトムハイブリッドプロジェクトグループリーダーを 2019 年まで兼任しました。2018 年からは JST- さきがけ研究者を兼任(2022 年まで)し、2019 年より現職で独立した研究室を運営しています。

その間に 2015 年第 61 回高分子研究発表会(神戸) ヤングサイエンティスト賞、2016 年平成 27 年度 高分子研究奨励賞、2017 年日本化学会第 97 春季年会 若い世代の特別講演、2023 年科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞などを受賞しました。

研究内容はデンドリマー(樹状高分子)を中心とした新規な有機材料の開発と有機エレクトロニクス、発光材料、ナノ粒子、超分子など多岐にわたっています。九州大学異動後は電池材料や電界触媒反応の開発にも力を入れているが一貫して新規な光・電子機能を持つ有機材料を開発しています。2024 年からは JST- 次世代のための ASPIRE 事業に採択されイギリス・ドイツを中心とした国際共同研究も積極的に推進しています。

デンドリマーは一般的なポリマー(高分子)とは異なる樹状構造を持つ高分子の一種である。デンドリマーを活用することで高効率かつ印刷などの塗布での有機 EL デバイス作製に適した発光材料を作ることが出来る。有機 EL ディスプレイはスマートフォンのディスプレイを始めとして我々の生活に欠かせないものになってきているが、現状は真空蒸着法と呼ばれる高コストな手法で作られている。これを印刷などの塗布で作製できれば、作成時の消費エネルギーなどのコストが大きく下がることが期待できる。本セミナーでは有機 EL 応用を目指したデンドリマー型発光材料について解説する。

2024

7.17 (水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_EcgjmcIcgSt2BS0t4oVnolw

【技術支援】九州大学 Q-AOS

ジェンダー平等への「長い列」 —国際社会と日本の男女共同参画政策の歴史—

司会：田中 俊徳 准教授 (Q-AOS コーディネーター)



Key Words

ジェンダー

男女平等政策の歴史

国連

女子差別撤廃条約

男女共同参画社会基本法

ポジティブアクション

ジェンダーギャップ指数

神崎 智子 理事

九州大学



九州大学法学部卒業後、北九州市役所に入庁し、人事や企画部門を経て、アジア女性交流・研究フォーラム国際情報課長、北九州市立男女共同参画センター副所長、北九州市立大学ひびきのキャンパス担当部長などをつとめました。在職中に九州大学大学院法学研究科で学び、博士号（法学）を取得。アジア女性交流・研究フォーラム主席研究員、福岡県男女共同参画センター「あすばる」センター長を経て、2023年6月から現職。ほかに、日本BPW連合会副理事長。

著書：『戦後日本女性政策史—戦後民主化政策から男女共同参画社会基本法まで』（単著）、『《写真記録》これが公害だ 北九州市「青空がほしい」運動の軌跡』（解説）、『《写真記録》関門港の女沖仲仕たち』（解説）ほか。

男女共同参画社会の形成は、21世紀の我が国社会を決定する最重要課題と位置付けられています。

日本の男女平等（ジェンダー平等）政策は、国際社会に背中を押されながら進んできました。

セミナーでは、世界の中の日本という視点からその歴史を振り返り、男女共同参画とは何か、なぜ男女共同参画が必要か、日本の現在地と課題についてお話しします。

2024

7.24 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_vVL7omsETJCgh8HXieSDIQ

【技術支援】九州大学 Q-AOS

イオノスフィア： 空の见えない鏡と宇宙天気

司会：錢 琨 准教授 (Q-AOS コーディネーター)



Key Words

電離層

宇宙天気

衛星

オーロラ

ナビゲーション

通信

フィッシング リュウ 教授

理学研究院 地球惑星科学部門

リュウ教授は 1996 年に中国の武漢大学で電気電子工学 (B.Sc.) を学んだ後、2001 年にドイツのマックス・プランク太陽物理学研究所で宇宙物理学 (Ph.D.) を修了しました。その後、アメリカの国立大気研究センター (NCAR)、ドイツのポツダム地球科学研究センター、北海道大学、京都大学で勤務し、2011年に九州大学に着任しました。研究テーマは宇宙物理学と宇宙天気です。リュウ教授は、1998年にドイツ学術交流会 (DAAD) フェローシップ、2001年に NCAR ポスドクフェローシップ (アメリカ)、2004年にアレクサンダー・フォン・フンボルトフェローシップ (ドイツ)、2005年に日本学術振興会フェローシップ、2010年に地磁気・地球惑星科学会 (SGEPSS) 大林奨励賞、2012年に文部科学大臣表彰若手科学者賞、2013年に資生堂女性研究者サイエンスグラント、2019年に地球惑星科学振興西田賞、2022年に地球電磁気・地球惑星圏学会 (SGEPSS) 田中館賞を受賞しています。

宇宙天気について聞いたことがありますか？ 5月に起こった世界中で見られたオーロラをご覧になりましたか？ もしそうなら、あなたはすでに宇宙天気を知っています。オーロラは宇宙天気の目に見える形です。しかし、美しいものの、オーロラは実際には宇宙環境の平穏よりも乱れを示しています。これらの乱れは「宇宙天気」と呼ばれます。宇宙天気は何によって引き起こされるのでしょうか？ 私たちにどのような影響を与えるのでしょうか？ 天気予報のように予測することはできるのでしょうか？ どのような課題があるのでしょうか？ この講演を聞いた後これらの疑問に答えられるようになるでしょう。

2023

7.31 (水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_8uMu2i5yTkGHRGT_8osmLA

【技術支援】九州大学 Q-AOS

社会的課題への 統計数理的観点からの貢献可能性

司会：横田 文彦 准教授 (Q-AOS コーディネーター)



Key Words

統計的推測

貧困地図

廣瀬 雅代 助教

九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所



大阪大学大学院基礎工学研究科博士後期課程単位取得退学後、博士学位（工学）を取得しました。統計数理研究所などを経て、2019年度に九州大学マス・フォア・インダストリ研究所（九州大学数理・データサイエンス教育研究センター兼任）の特定プロジェクト助教に着任。2022年度に九州大学マス・フォア・インダストリ研究所専任助教に着任しました。

SENTAN Q(ダイバーシティ・スーパーグローバル教員育成研修；

<https://sentan-q.kyushu-u.ac.jp/>)の遂行のため、最近までアメリカにて国際共同研究を行っていました。専門は、統計科学・統計数理です。より具体的には、小区分ごとの統計的推測法の研究を行っており、将来は、証拠に基づく政策立案(EBPM: Evidence Based Policy Making)に向けた、統計学的視点からの社会貢献を目指しています。

近年わが国でも貧困に関連した社会問題が取り上げられてきています。そのような状況をより細かく把握するため、信頼性の高い地域別のエビデンス資料作成は非常に重要になると考えられます。ところで、こうした課題解決に数理的観点からの貢献可能性はないといってしまうのでしょうか。講演者は、そのような社会的問題においても数理的研究の威力を発揮できると考えています。本講演では、社会的課題として貧困問題に焦点をあて、統計数理的観点からの地域別貧困率推定への貢献可能性をお伝えしたいと思います。